

♥ Love 北区 いつも笑顔、全力疾走！



小室 まさのりさん



みんなの頼れる相談相手に！

北海道労働組合総連合事務局長、高校の教職員組合の中央執行委員、最高裁が任命する札幌地裁の労働審判員など、全道で活躍してきた小室まさのりさんが日本共産党から市政に挑戦！生い立ち・思いなどを独占インタビューで聞きました。(2019年1月・聞き手は藤女子大・小村優さん)

Q1 まず北区のみなさんへのメッセージをひと言お願いします。

A 生まれは中央区ですが、大学入学と同時に北区民に。就職、結婚して長男が誕生。札幌駅北口に近い「産休明け」共同保育所で育ちました。そして長女も。長男、長女が育った保育園をつくって頑張った先生たち、お父さんたちとは今もおつきあいが続く街、北区。こんどはお世話になった私が恩返しする番かと思います。みなさんの頼れる相談相手になれるようがんばります。よろしくお願ひします。

99%のための政治に！

Q2 「こんどは市政に」という、その思いは？

A 長く労働組合や裁判所の仕事をしてきましたが、できなかったこともたくさんあります。例えば長年とりくんできた若者雇用の問題、札幌市にもある非正規雇用の「雇止めルール」撤廃や教職員数の抜本的な増員など、どうしても政治が変わらないと実現できないことがあります。介護や年金、社会保障、それに憲法9条までこわしてしまおうという「アベ政治」をこのままになんかしておけません。「一握りの人、巨大企業の利益のための政治でなく、99%のための政治に変える」「政府のいいなりでなく住民のくらし優先の市政へ」その仕事ができれば、という思いでいっぱいです。

困ったときはお互いさま。



Q3 「相談5000件」ってすごい。どんな相談がありますか？

A まちづくりや生活相談、医療費、介護のこと、突然の解雇や「雇い止め」、子育てのことなど暮らしにかかわることなんでもです。10年前のリーマンショックの時には事務局長をしていた道労連、「SOSネットワーク」への「今晚寝る場所がない、お金もない」というような相談電話が毎日ありました。「困ったときはお互いさま」とカンパを募り、アパートを確保したり。ハローワーク前で「働きたいみなさんの声」とアンケートを集め、国に緊急雇用制度もつくりさせました。会社の倒産などがあると何百人もの相談を聞き、大急ぎで対策を立てますし、最近では、地震のあとでの住宅損壊や道路の陥没、地域の除雪についての相談もたくさんで、毎日忙しいです。

公共事業は住民生活密着・支援型に、地元業者さんの仕事に！

Q4 昨年9月の地震、1月の新琴似水道漏水について

A 「安心な毎日がいつもあるわけじゃない」「そなえが大切」多くの人がそう思った地震と1月の漏水事故でした。震災のときには9月6日の朝から避難所や被災したみなさんのところを駆け回りましたが、避難所の備品も充分ではありませんでしたし、相談体制や被災者支援・生活再建の制度など、整備しなければならないこともあります。電力供給の一極集中が原因で全道ブラック・アウトを招いたにもかかわらず、泊原発再稼働で危険をさらに大きくしようとしていることなど論外ですし、都心アクセス道路などの大型開発ではなく、老朽化した橋や道路、水道設備の補修・耐震化、除雪予算の確保など災害から命とくらしを守る地域密着の公共事業への転換が必要です。みんな地元業者さんの仕事ですよね。

孤立や「おいてきぼり」つくらない街づくりのトップランナーに！

Q5 どんな北区に？

A 北区人口28万5794人、函館よりも多く、もちろん札幌ではいちばん多い。宅地・団地造成が続き、人口増・成長が続く街です。そして豪雪。保育所も福祉施設も学校も市内最多ですが、広くて街の成長に行政が追いついていない地域もあります。今回の地震でも「誰からも声がかからず不安だった」という方も…。バスなど公共交通機関が届いていない地域もあり、生活弱者、高齢者の孤立や「おいてきぼり」をつくらない地域づくりが待ったなしです。篠路、屯田、鉄西地域など開拓の歴史に残る北区ですが、安心な街づくりでもトップランナーになれたら良いですね。北大、教育大はじめ大学生も市内で一番です。一緒に安心で、活気ある街をつくりましょう！

一緒に変えましょう！



ストップ消費税増税・9条改憲ノ！！

障がい児学校の非常勤給食調理員を39年つとめましたが、不安定な身分でのきつい仕事。小室さんはたくさん助けていただきました。ぜひ市政の場で弱い人のためにがんばってほしいです。

元給食調理員
矢野久代さん



日本共産党

こんにちは

小室まさのりです



オフィシャルHP



フットワーク抜群！いち早く地域、「現場」へ

学生時代は高校男子バスケの名門、札幌南高校でキャプテンとして活躍。1月の新琴似水道漏水事故でも、昨年9月の胆振東部大地震でも直ちに地域へのお見舞いと調査に。地震では相談窓口設置などを北区に求めるとともにあいの里の飛び出したマンホール切り下げ（道路陥没補修）などに奔走、漏水問題でも即「原因究明」「耐震化計画」の要請へ。その「フットワーク」は、スポーツでも社会活動でも試され済みです。

原点は平和「野党共闘・9条守ろう」と・・・

「命がけで戦争反対をつらぬいた」日本共産党に共感し、学生時代に共産党へ。札幌地裁が長沼ナイキ基地訴訟で、歴史的な自衛隊違憲判決を行った1973年9月には、道学生自治会連合委員長として北大から裁判所に向かう判決前夜のデモ行進の先頭に立ちました。「9条改憲でなく、9条をもつ国として戦争のない世界をめざす先頭に立つ政府を野党共闘で」と現在は安保法制違憲訴訟の原告。



プロフィール

1951年札幌市生まれ。
道立札幌南高校、北海道大学理学部卒業。あいの里在住。
現在日本共産党札幌北区地区委員会市民運動部長。
大学卒業と同時に労働運動にとびこみ、北海道労働組合総連合事務局長、北海道高等学校教職員組合中央執行委員、貧困なくす「SOSネット北海道」事務局などを歴任。
札幌地方裁判所労働審判員(18年8月まで)をつとめた労働法の専門家。2男1女の父。
保育園保護者会運営委員、元小学校PTA会長、ミニバス少年団団長、団地自治会総務部長もつとめました。
中学、高校、大学とバスケ部で活躍。現在は健康スイミング。

毎月の「総がかり」デモで若者たちと一緒に。

北区新報

2019年2月号外
日本共産党札幌北区地区委員会 札幌市北区新琴似10条7丁目7-16 ☎011-788-5760
■ご意見をお寄せください。

●日本共産党札幌北区地区委員会は、小室まさのりさんの経歴と政策を発表しました。

